

---

# 高松支部国語部会

---

高松・国分寺中 武藤 泰明

---

## 1 研究主題

生きて働く力を育む国語教育 ～言葉による  
見方・考え方を働かせ、深まる学び～

## 2 研究の概要

(1) 4月23日(水)

第1回主任研修会・研究部会

- ① 研究組織の編成
- ② 研究主題の確認

(2) 6月17日(火)

第2回主任研修会・研究部会

- ① 理事会の伝達
- ② 高松支部夏季研修会について

(3) 7月25日(金)

高松支部夏季研修会

令和7年度版中学校「国語」教科書説明会

講師 光村図書出版株式会社編集第一本部

第一編集部中学校国語課副編集長

倉井 睦 様

中四国支社

佐藤 雄一郎 様

今年度から新しい教科書となり、新しく教材として採用された内容についての研究協議と、光村図書の編集担当の方による説明を行った。教科書の説明では、QRコードや語彙ブック、学習の手引きなどについて説明して頂いた。参加した先生方からは、「教科書の中には生徒がより学べるチャンスがあり、私たちはそのチャンスを与えないといけないと思った」という感想や、「講師の方の話を聞いて、指導の選択肢が広がり授業改善の意欲を高められた。」など肯定的な意見が多かった。また、

新教材の評価やICTの活用方法、授業展開などについてグループごとに協議した。参加した先生方からは、「新しい教材の単元計画や内容についてじっくり考えたり話し合ったりすることができた。2学期の実践に活かしていきたい」という意見が多かった。次年度も、先生方の実践に活かせるように学ぶことができた。」などの意見がよせられた。今後も先生方の実践に活かせるような研修を継続的に行っていきたい。

(4) 9月24日(水)

第3回主任研修会・研究部会

- ① 高松支部夏季研修会について
- ② 国語ワークブックのアンケートより

## 3 実践事例①

(1) 令和7年 11月13日(木)

高松市立屋島中学校研究授業

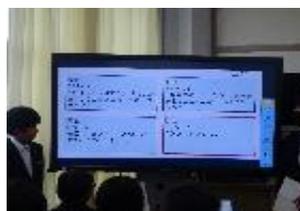
会場校 屋島中学校

授業者 弘瀬 惇也 教諭

指導者 古市 百合香 研修係長

(高松市総合教育センター)

題材『二十歳になった日／さくらももこ』



(2) 単元目標

[知識・技能]

・事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

### [思考・判断・表現]

・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。

### [主体的に学習に取り組む態度]

・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

### (3) 単元計画 (4時間)

- 1 全文を通読し、随筆の内容を捉えるとともに、構成をおさえる。(1時間)
- 2 よりうれしさがわかる表現を見つけ、その良さの理由を考える。(1時間)
- 3 見つけた表現を班で話し合い、「推し」を一つ決めて交流し、表現の多様さや言葉の魅力に気づく。(2時間 1/2本時)

### (4) 本時の学習指導

#### 【目標】

・表現の工夫について、それがどんな効果を生んでいるかを、自分の言葉で説明することができる。

・他者の意見を聞いて、表現の多様さや言葉の魅力に気づくことができる。

#### 【ICT を活用した自己肯定感を高める手だて】

・学習支援ツールを活用することで、互いの考えを可視化することができ、多様な考え方に触れることができる。また、考えがまとまらないと感じている生徒も、GIGA 端末や電子黒板に映った意見を参考にすることで考えやすくなり、自己肯定感を高めることにもつながる。

#### 【ICT 活用のねらい】

(協働での意見整理)

※学習指導過程は次ページに掲載

### (5) 成果と課題

本時はうれしい気持ちができる表現について、班の「推し」を選ぶという言語活動を通して、言葉の魅力に迫る展開の実践であった。まず、

各自が選んだ「推し」を班で発表した。次にその中から最も良かったものを一つ選び、それを全体で共有した。発表の際は、ICTを活用し、班員全員の「推し」を表示していた。そうすることで、班の意見がどのような過程で決まったのかを全体で共有することができた。これは、一人ひとりの意見を尊重し、生徒が安心して意見を出し合える雰囲気づくりにも繋がっていた。全体に発表する際には、授業者が発表原稿を配布し、発表するときの話型を示していた。これにより、生徒が安心して発表することができ、進行もスムーズに行うことができていた。参観された先生方からも「話し合いの雰囲気が良く発表の仕方もしっかりしていた。」「班の代表意見を決める時も、互いの意見の良いところや根拠を言い合う活動が自然と始まっていた。」「互いの意見を尊重する土台がこれまでの積み上げで培われていると感じた。」という意見があった。

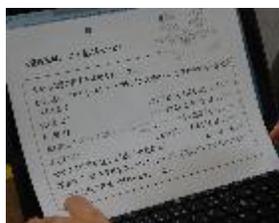
指導・助言していただいたこととして、「深い学び」につなげるための手立てや、「主体性」を育むための手だてである。本単元において深い学びに繋げるための手立てとして考えられるのが、自分で随筆を書くことをゴールにすることだ。また、最後の振り返り際には、「なぜ随筆を読む(書く)のか?」ということを考えることで、学んだことを次につなげられ、自分のものになっていくと推察される。主体性を育む手だては、「推し」を選んだ部分が同じ人と話し合ったり、根拠が似ている人と話し合ったりすることだ。生徒が誰と話をするかは、生徒が決めることで選択する機会を増やすことができる。以上のことを指導・助言していただいた。次期学習指導要領に向けて多様性を尊重し、包摂的な実践を行うことが重要であると考え。その土台には安心して話し合える雰囲気や関係性を日々の取り組みから培う必要がある。そのために教師自身も日々学ぶことを大切に、教材と向き合い実践や討議を重ねることも重要なことである。今後も研究と実践を重ねていきたい。

学習指導過程

<p>学習内容及び活動</p>	<p>○教師の支援・指導上の留意点 ◎ICTを活用した自己肯定感を高める手だて ◇評価</p>
<p>1.前時の学習内容を振り返る。(うれしさがわかる表現について、どんなものがあったか。)</p> <p>2.うれしい気持ちがわかる表現について、班の「推し」を選ぶ。</p> <p>(1)各自が選んだ「推し」を班で発表する。</p> <p>(2)班で出た「推し」の中で最も良かったものを、一つ決める。</p>	<p>○「とても」や「すごく」ではない、気持ちの強さを表す表現についてみんなで共有していくことを伝える。</p> <p>○「推し」を発表する際は感想で終わらず、「なぜそう感じたのか」を根拠づけて発表するよう助言する。</p> <p>◎SkyMenuの発表ノートを用いて意見を交流することで、自分の考えを可視化し、発表しやすくする。</p> <p>○班で出た意見を発表ノートに入力させる。</p> <p>◇表現の良さを自分の言葉で説明できている。</p> <p>○他の意見と比較して考えるよう助言する。</p> <p>○表現の良さについて言語化することに難しさを感じている生徒に対しては、「○○という書き方</p>

<p>3.班で話し合った「推し」を全体で共有する。</p> <p>4.本時の振り返りをする。</p>	<p>で、△△な気持ちが伝わった」など説明の仕方を提示する。</p> <p>◎電子黒板を活用して、班の意見を全体で共有できるようにする。</p> <p>○発表で出た「推し」の表現の良さを黒板で整理し、言葉には「気持ちの強さ」を表す表現の多様さや魅力があることを確認する。</p>
--	---

発表原稿



板書



## 実践事例②

(1) 令和7年 11月14日(金)

高松市立牟礼中学校研究授業

会場校 牟礼中学校

授業者 清水 悠人 教諭

指導者 河村 愛弓 指導主事

(高松市教育委員会学校教育課)

題材『君待つと一万葉・古今・新古今』

(2) 単元目標

- ・歴史的な背景を踏まえて和歌を読み、作品の世界をより深く、広く理解することができる。
- ・3つの和歌を読み、印象に残った和歌について、現在と当時の価値観を比較しながら和歌に表れる作者の思いや工夫について考えることができる。
- ・それぞれの和歌の持つ特性や価値について論じたり、評価したりすることができる。

(3) 単元計画(4時間)

- 1 3つの和歌を比較し、気に入った和歌の思いや工夫を考える。(1時間/本時)
- 2 万葉・古今・新古今を読み、心情や情景を読み取るための表現を学ぶ。(2時間)
- 3 印象に残った句の表現を調べ、当時と現在の価値観を比較し発表する。(1時間)

(4) 本時の学習指導

※学習指導過程は次ページに掲載

本時で題材にした和歌

- ・わが妻は いたく恋ひらし 飲む水に 影かごさへ見えて 世に忘れず  
(若倭部身麻呂/万葉集)
- ・思ひつつ 寝ればや人の 見えつらむ 夢と知りせば 覚めざらましを  
(小野小町/古今和歌集)
- ・忍ぶれど 色に出でにけり わが恋は ものや思ふと 人の問ふまで  
(平兼盛/拾遺和歌集)

(5) 成果と課題

本時は、レーダーチャートを用いて和歌を評価するという活動をメインに実践した。和歌の評価を行うために自分で観点を考えて行うことは、生徒の様々な考えが表出し、生徒が主体的に考え、話し合う材料になっていた。レーダーチャートを使い、和歌を数値化することで比較した足跡を視覚的に示すことができ、話し合い活動の時も、説明がしやすく、「やってみよう」と思える活動であった。古典の授業ではどうしても説明過多になってしまうことが多い中、今回の実践は、生徒が楽しく意欲的に取り組むことができた実践であった。研究討議の中であげられた課題は以下の3つである。①レーダーチャートを使って意見を交流する時に、なぜその評価の観点にしたのか、なぜその数値にしたのかを、グループや全体で共有できれば深まったのではないかという意見があった。その際に、古語から考える視点を入れることで、和歌の表現を根拠に話し合いができるのではないかという意見もあった。②教員が作成した動画を用いていたが、動画についてはスカイメニューの資料箱としていつでも見られるようにしたり、既存の動画を用いたりするのもよいのではないかという意見があった。③時代背景を知ることが、和歌を読み解くためには必要であることに生徒が気づくことが大切なことであるという意見があった。

参観された先生方の感想には、生徒が古典の授業に前向きに取り組んでいたこと、和歌の導入の授業として今回の実践は、古典に親しむきっかけになるのではないかという意見が多く寄せられた。指導者の方からは「生きて働く力」とは、社会生活で主体的に活用できる力であり、言葉に注目することで、言葉による見方や考え方を高めることができる。という助言をいただいた。このことを念頭に今後も研究を重ねていきたい。

※以下本時の学習指導課程

学習内容及び活動	指導上の留意点及び評価
<p>1 生徒の恋愛観と当時の恋愛観を比べる。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p> <p>3 3つの和歌を見比べ、評価する。</p> <p>(1)個人で考える。</p> <p>①観点ごとに和歌を評価する。</p> <p>②気に入った点をまとめる。</p> <div data-bbox="161 971 353 1242" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>チャートの観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の美しさ</li> <li>・表現の工夫</li> <li>・共感できるか</li> <li>・情景の浮かびやすさ</li> </ul> </div>	<p>・現代の交際方法と当時の交際方法を比較しながら板書することで、当時の恋愛における難しさや課題を共有する。</p> <p>・提示する和歌は生徒が共感しやすい恋愛をテーマにしたものとし、当時の時代背景にも着目しながら考える。</p> <p>・和歌については、当時の時代背景が明確に表れている。遠くの人を思う句、夢の中で思い人に会おう句。自分の恋をしのぶ句の3句を取り扱う。</p> <p>・作者の思いを考え、その思いを表現するための言葉遣いや工夫に注目するように伝える。</p>
<p>板書</p> <div data-bbox="161 1290 353 1474" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">  </div>	<p>・歴史的仮名遣いや主語の省略などの古文独自の読み方や「通い婚」などの当時の文化や価値観が分からずに止まってしまうことを防ぐために、生徒個人がヒントとして解説動画を選択できることをアナウンスする。</p>

<p>(2)グループで評価する。</p> <p>①評価したものをチャートと比較する。</p> <p>②気に入った理由や工夫を検討する。</p> <p>③動画を撮影する。</p> <div data-bbox="776 765 964 938" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>活動の様子</p>  </div>	<p>・観点ごとに和歌を分析するためにレーダーチャートを活用する。</p> <p>・グループの意見が発言力のある限られた生徒だけの意見にならないように班員の意見の良いところを集め、まとめたものをグループの意見とするよう助言する。</p> <p>★友達のよいところを認め、自分の意見を深めるために、グループで話し合う中でいいと思った意見をメモする場を設ける。</p> <p>・根拠をもって発表できるように発表の流れを電子黒板に提示し紹介する。</p> <p>★各班で何度でも見直せるように動画形式にする。</p>
<p>4. 活動の振り返りを行う</p> <p>①学習に取り組み分かったことをまとめる。</p> <p>②古文への理解を深めるために自分たちに必要なことを考える。</p>	<p>・古文の世界に親しむという目標を達成するために現在と過去の価値観を比較してどう感じたかをテーマに振り返りをさせる。</p> <p>・現代と異なる価値観もあるが、限られた文字数で思いを表現しているところに面白さがあることを理解し、学習を進めていくことを伝える。</p>